

「人生の意義が人と交流することであり、交流することで人生の意義が成り立つでしょう。それを実感するのは、まさにろくでもない状況に陥っている時なんだ」

今回のやり取りの中で、ある人から上記のコメントをもらい、このウェブサイトのモットーにしました。

「力になる交流」

“Exchange that generates strength”

3月11日に東日本大震災がおきました。

首都圏や関東地方に住んでいる友人、ビジネスパートナー、ずっとお世話になっている方々へご安否を尋ねたところから、メールでのやり取りがはじまりました。

ドイツではメディアが福島原発の事故を最大のテーマとして取り上げ、日本中が放射性汚染による大規模災害に直面しているとの印象が広がりました。その中で首都圏や関東の住民が避難しない、あるいは恒常心が保たれていることは世界的に注目を集め、評価されました。

地震からおよそ2週間経った時点で「私個人の思いと考え」という文章で自分なりの感想と人々の行動への感銘を表現し、およそ60名の方々にお送りました。

そこで、たくさんの方々よりコメントや感想文を頂戴いたしました。

突然の自然力に邂逅した時の愕き、おおかたの人が示した行動に関する説明、大震災を大きな変化点と捉える前向きな姿勢、原子力に対する不安、将来への期待など奥深い考え、現状分析、抱いている感情などが書かれてあり、そこまで交流ができたことを光栄に、また大変嬉しく思いました。

その反面、その交流がこちらに返信してくださった相手の間だけに留まることは非常に残念に感じました。各文章には、同様の事情に陥っている方々、同様の心配を抱えている方々へのメッセージが潜んでいると思います。**同じ関東地方に住んでいる人が読めればきっと力になると思っております。**

そこで、返信してくださった方々に許可を得た上でこの**「力になる交流」**の場を設定いたしました。上部に交流がはじまった「私個人の思いと考え」の載せ、その下に返信をいただいた順番にその文章を記載しました。難しい状況が続いている中で、少しでも激励の効果があれば大変嬉しく思います。

この交流に参加したい方のメールをこれからも歓迎いたします。

ditzer@jeb-i.de までどうぞ。

引き続き皆様のご無事をお祈りしております。

JEB interlogue GmbH (ドイツ)、有限会社**インターログ JEB** (東京)

Roman Ditzer デイツァー ロマン、パートナー

Stephan Schoenfeld シェーンフェルド ステファン、代表取締役、パートナー

Masahiro Iizuka 飯塚真弘、代表取締役、パートナー

3月23日に送信

「私個人の思いと考え」

福島原発での状況が若干安定しつつあるとの印象を受けますが、また悪化しないことを願っています。

東北大震災が起きてからもうほぼ2週間が経ちました。この期間内に、非常事態に陥った場合の日本人の行動とドイツ人の行動を見ていろいろ思い当たること、考えさせられることがありました。

極端な状況に陥ったのは日本ですが、極端な反応が見られたのがドイツでした。

地震が起きてすぐドイツのメディアが福島での炉心溶融が事実として取り上げられ、福島の放射能がすぐドイツに振ってくるというのが一般の印象でした。つまり、チェルノブイリの焼き直しです。ドイツ政府がその圧力を受け、急ぎの対応としてドイツにある17原子力発電所の中の7つを停止させました。一言で言ってしまうと、すべてが「大袈裟」。

それに比べると、日本では正反対の反応が見られました。避難しないと決定し、関東地方と東京圏内に残った市民が本当に正しい決定をしたかどうかはまだ判断できません。しかし関東の住民が一斉に慌てて南へ避難しようとしていたら、別規模の災難になっていたでしょう。そのような状況の中で冷静な行動を見せ、治安を維持したのが日本人でした。東京駐在の外国人の多くが関東地方を素早く去りました。そうした反応から考えると、もし他の国で放射能汚染災害の可能性があると報道されると、おそらくすぐに大規模な集団脱出が始まったのではないかと思います。

そのような背景があり、私は、日本人と外国人を問わず東京・関東に残った都民に敬意を払わざるをえません。ニュースによると現在まで身体に有害な放射能はまだ測れていません。通常の水準を上回っているのですが、現段階では長期的な悪影響は予想されていません。

不安にさいなまれ、政府が公開している情報はどれくらい信用できるか分からないという、極めて難しい状況のもと都民は事実だけを見て冷静に振舞いました。

人々は表面では冷静に見えたでしょうが、内心では決して穏やかでないことは分かります。どの人間でもそのような状況のもとで不安は抱くし、極度のストレスが溜まるに違いありません。

都民の多くが出勤したり、買い物に出たりと日々の生活を続けています。いつ危険なことになるかが分からない状況の中ではそれが正解なのかもしれません。慌てる必要がないのなら、パニックにも陥らない。パニックモードに変わる前に再度考える。形

だけかもしれませんが、いつもの作業を繰り返すことで血圧を安定させ、理性的に情報を判断することが可能になります。そういった心理的な意味で、避難しないで日々の生活を続けていることは賢い決定だったと思います。その一方、西洋社会も同様に避難本能を抑制した反応ができたかどうかは少々疑問です。

全体状況がまた劇的に悪化しない限り、おそらくこうした反応こそが大震災と津波後の現状の中で一番役に立っているものなのだと思います。繰り返しになりますが、早い段階で何百キロか南へ非難したほうがいいのではないかと人に薦めた私ですが、人々のそうした態度には本当に感銘を受けています。

今回、反省し、勉強になったことがあります。外部から観察することしかできない場合には、まず背景と事実を調べるべき(信用に値する情報を見出すべき)ということです。判断と推薦の前にまず読むべし、ということです。

以上は現段階の私個人の考えです。

こうした考察とは別に、命や親戚と友人を失った方々、そして生き残った方の災難を心から憂っております。

そちらでは厳しい状態が続くかは存じますが、どうぞお気をつけください。

Roman Ditzer
ディツァー ロマン、ドイツ

sent on March 23rd

“Some personal thoughts”

Dear friends

the situation in Fukushima in Japan seems to become somewhat more stable – hopefully it stays that way. It has been nearly two weeks since the earthquake. In the course of these two weeks I have learnt a lot about the behavior of Japanese people and German people in abnormal situations.

We have seen extreme reactions in Germany, whereas the situation was extreme in Japan, not in Germany.

In Germany since the day of the earthquake the media were fast to report a meltdown which was quickly treated as a matter of fact and the overall impression was that Fukushima was just around to fall down (out) on Germany. Chernobyl reloaded. The government felt the pressure and its overhasty reaction was to stop seven out of 17 nuclear power plants. In one word: exaggeration all around.

By stark contrast reactions have been anything else than extreme in Japan. It is still too early to say whether all the inhabitants of greater Tokyo or the Kanto region who decided to stay right there have really made the right decision. But they have kept cold blood and public order in a situation in which a panic would have certainly led to a catastrophe of its own. Judging from the reaction of all the foreigners that have left very quickly, it can be assumed that in any other country a mass exodus would have set in after the first news about a lingering radiation catastrophe.

Behind this background I have a deep respect for all those inhabitants of Tokyo who stayed. As far as has been reported, no radioactivity of a level that would be harmful has been detected in Tokyo. Figures are higher than normal but not to a level with lasting effects as of now.

Amidst a situation of uncertainty and doubts concerning the information being released from official side people have kept their cool and stuck to the available facts.

Although at a superficial level people may have seemed controlled and cool, I know that they have been confused and worried and stressed like anyone else would have been in that situation.

People stuck to the daily routine of going to work and going on with everyday life. This is probably a wise reaction to an uncertain situation with the potential to develop into a dangerous one. Don't panic before there is need to do so. Think twice before you change to panic mode. This is wise in a psychological sense because repeating routines (*kata*) keeps the blood pressure at a level where evaluating information is still possible. Again, I have doubts whether there are

any Western societies that would have been able to an equally controlled reaction.

If the situation does not still take a very dramatic turn, this will probably prove to have been the reaction that is most helpful for Japan at large in the aftermath of the devastating earthquake and tsunamis. So I can only say I am really impressed – also because I have also personally recommended people to leave for a safe haven a few 100 kilometers to the south as early as possible.

What I learnt is that as someone who stood aside and could only watch in such a situation it is essential to try to learn more about the background and the facts – to find reliable sources and read before making judgements and recommendations.

Besides all the above thoughts and conclusions I feel thorough sadness and grief for those who lost their life or relatives and friends and for the survivors' misery in the affected areas.

Sending warmest greetings from Germany.
Please take care

Roman Ditzer

3月11日に受信 received on March 11th

地震直後の状況が描かれているので「私個人の思い」を送信する前にいただいたメールも挿入いたしました。

Thanks for the message. I am completely alright.

I was at school studying. It was very long. It is bigger than the one I experienced in Izu when I was at elementary school. However, the bookshelf of our study room was OK.

There was no books falling off. After the earthquake, most people were still studying for the bar exam. There were people playing tennis outside. I went to eat shabushabu after that. There were tons of people lining up for buses around the station since the train was completely stopped.

Tokyo's transportation system stopped completely. Some buildings are on fire. All the business people are stuck in downtown Tokyo. Business people will stay overnight at their offices. Most universities and shopping buildings are open for the people who can't go home. Many of our classmates are staying overnight at the Tokyo Regional Court since they went to see the proceeding today. It is a huge mess in central Tokyo today.

It is the biggest earthquake that Japan has ever experienced after the World War II. M8.8 is bigger than the one that happened in Kobe in 1995.

Sendai is suffering a disaster. You might have seen it on TV. They say that about 300 people were drowned of Tsunami.

I will study a little more for tomorrow's study group meeting. I have no problem at all although the city of Tokyo is in a big mess.

(法律マスタースクールの学生 東京郊外)
(from a Law school master student, suburb of Tokyo)

3月13日に受信 received on March 13th

地震直後の状況が描かれているので「私個人の思い」を送信する前にいただいたメールも挿入いたしました。

[部分省略]

1000年に一度有るか無いかの大災害・・・大津波・・・と報道では伝えられています。「事実は小説より奇なり・・・」という言葉がありますが、人の命を含め全てが濁流に飲み込まれていく・・・正にこういうのを「阿鼻叫喚」というのでしょうか。

幸い栃木工場は「軽傷」でした。
今日月曜日から・・・80%は復旧しています。
ご心配・お気遣いありがとうございます。

ではまた・・・

(会社員 1 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))
(from employee at a 1 group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

3月16日に受信 *received on March 16th*

地震直後の状況が描かれているので「私個人の思い」を送信する前にいただいたメールも挿入いたしました。

[部分省略]

I and my family are safe, and my house was not broken fortunately.
At that time, I was on 11th floor of HQ office, and experienced the biggest and most awful quake in my life.
I couldn't stand on the floor and sit on the chair !!
And at that night I had to return to my home on foot.
It took 4 hours!!!! This was a first time for me, too.

Still now minor quake are occurring continually some place in East-Japan.
But OK! Every Japanese is dealing with this disaster calmly and trying for the solution.

(日本企業会社員、東京都)
(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月24日に受信 received on March 24th

[部分省略]

そうですねえ・・・今週の初め・・・地震から10日を過ぎた今週月曜日あたりから、TVに於ける震災報道や原発報道は極端に少なくなりました。今日24日午前中に工場でテレビのSWを入れましたが、ある瞬間でしたが全く震災報道はありませんでした。高校野球の中継とか娯楽番組だけでした。当然今の瞬間も福島原発事故現場では懸命の復旧作業が行われているのですが、TVでの詳しい情報収集はほとんど不可能になってきています。

良く解釈すれば「事故は良い方向に収束されつつある」という事でしょうが、それにしても世界が注目している事故に対して、一瞬といえども公共放送が何もされていない・・・これは異常だし日本人として情けなく思います。こういうところが日本人が海外から非難・批判される所以なのです。私は日本人として、「今回の3重苦・・・地震・津波・原発事故・・・で極めて多くの反省点がある」事を強く感じています。

また・・・

(会社員 1 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))
(from employee 1 at a German group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

3月24日に受信 received on March 24th

[部分省略]

Expatsの人たちが西へあるいは本国へ帰国するという対応も危機管理として十分理解しうるし、現時点で東京以北に残るといった判断も自分を含めて致し方なし、と思います。

先週は自宅待機の会社が多かったようですが、今週からは基本は出社という会社も多く、みな、Back To Normalityに向けて始動し始めているのが現状のビジネスパーソンの姿と思います。

しかし、今も茨城南部で震度5の余震があったように、正直仕事が「手につかない」という落ち着きのない状態が続いています。

昨日、東京都水道局の金町浄水場で基準値を放射性ヨウ素が検出されました。国の発表は「粉ミルクを溶く水としては使わない(それ以外ならば妊婦も大丈夫)」という何の根拠もデータもない、一層の風評を助長するようなものでした。

スーパーからは一斉にミネラルウォーターがなくなりました。企業の広報を少しでも担当したことのある人間なら「???」という政府発表あるいは新聞記事が多く、政府も混乱しているのが手にとるように分かります。

家内の実家は仙台で、胸まで海水に浸かって命からがら逃げた親戚もいれば、未だ行方の分からない親戚もいます。義理の母からは、ガソリンスタンドの列に6時間並んだけど、あと5人、というところで売り切れになって給油できないといっています。

たぶん Normal な状態に復興できるまであと何年要するのか、東京でもいつものような買い物ができるまでは数ヶ月はかかるのでしょうか。

ドイツメディアの Overreaction は危機管理としてある意味正しいとは思いますが。我々もひょっとして政府発表にだまされているだけかもしれません。

けれど、今逃げたら、日本ではむしろ「村八分」にされるでしょう。今だからこそ、自分の村(会社)に残って、できる限りのことをして、助けあう、そうやって長い歴史をはぐくんできたのが日本社会だと思います。政府を含め、こういうときは非難をやめている。いろいろ自粛しながら助け合いましょ、というのが日本社会の構成員の心理状態だと思います。よくも悪くも「和」です。

ローマンからのメッセージ、日本人を美化しすぎた部分もあるけど、正直嬉しく思います。というか、日本を信じないとやってけない、というのが悲惨が現状からの我々の希望でしょうか。

乱筆乱文済みませんでした。

(日本企業会社員、東京都)

(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月24日に受信 *received on March 24rd*

[部分省略]

and yes, there has been some degree of consternation by a number of foreigners, and of course i do not know how many in actual fact. the other day there was a silly story in a japan times online by one journalist, from tokyo, now in kyoto, defending those who left from the comments of those who stayed (i am not sure how those comments were made). "Do Not Judge Lest You Be Judged" i think was the headline. i think that can be said in another way "If you call me names, i'll call you names back." so, i wonder what names he would call me (and other folks who stayed) if had the chance to start first? (albeit, we are 80 km's to the southeast of tokyo). regardless, i have heard some comments about people who left from 3 others that made me wonder that there must be more sharing the same thoughts. yes, i think that there was some overreaction from some, and then, those with young children can do whatever they like i think. even the weirdest logic in that case i will not see.

certainly, we made most of our early decisions based on the only known facts that were indisputable and first hand: the wind was blowing away from us and we were a long way from the fukushima area itself. after that, find information, verify, make conclusions, decide, act. yes, we still feel "safe". i feel that the situation in tokyo is not as dangerous as Facebook and some media would have us believe. yes, there have been some very stupid unbacked up knee jerk comments from some on Facebook. i must admit, i have learnt a lot these last 14 days.

and to be sure, also very early, we had targeted places to stay in Izu, then a friend's place in Yamanashi next, then after that, a friend's parents and people in fukuoka/miyasaki and then finally, a relative in singapore if we had to go further. yes, not worried, yes, always make sure you know where the exits are, yes. have a fall back plan.

the only concern i have now is what if the tokai plate decides to create a large earthquake. with tokyo northern corridor questionable and most clearly sensitive to exacerbation, options are reduced. yesterday, we together worked on the corridor to Yamanashi if southeastern corridor closed in tokai plate was to close down main trunk lines southwards. the only hole in the back up plan is we have no car which will be needed in such a case. if needed, i will find one. absolutely.

[部分省略]

all plans are on hold and being moved and canceled. a bit uncertain. it is what it is. at least we have a house unlike many folks tohoku. hell, last night we even had a bottle of red wine, with a cheese and tomato and broccoli pasta, cheese and ham on biscuits and negi with cheese and ponzu sauce.

(自営業 神奈川県)

(from a self employed professional, Kanagawa prefecture)

3月24日に受信 received on March 24rd

[部分省略]

私と私の家族は全員無事で建物も無事です。
(地震に強い[社名省略]でしたので)
埼玉の[社名省略]の従業員及びその家族も全員無事です。
工場の建物、生産設備は一部軽微な損傷はありますが
休み明けの3/14から生産を行っています。
ただ、部材がそろわず、思うように製造できない面が
苦慮しています。

参考となるご意見ありがとうございます。
日本では暴動や商品の略奪行為が無く、食料品・水の配布
にも長い列できちんと並んでいる姿は不思議(?)と
思われている、と海外では報道されていると聞きます。

私が思うに日本は長い年月、鎖国政策を取っていた狭い
島国のため、有事(災害・事件)があっても逃げるところが
無く、結果的に、狭い島の中の日本人同士協力し合っ
て行かなければならない、という意識を持っています。
その意識が外国から見ると変わった人種(規律正しい人種)
に見えるのだと思います。

この意識、行動が結果的に良いことか悪いことかは、
数年後の日本の姿を見ないと結果が出ないと思います。
早期に復活できるよう見守っておいてください。

(日本企業会社員 埼玉県)
(from an employee at a Japanese company, Saitama prefecture)

3月24日に受信 *received on March 24rd*

[部分省略]

Thanks for your thoughts!

Tokyo was fortunately spared by this disaster that has destroyed so many lives – so far at least.

But even here, nothing is back to normal yet, and it won't be for quite a while. After pulling through the disaster as calm as possible, some important questions will have to be raised and hotly debated:

- The future of nuclear energy
- The rein of domestic monopolies such as TEPCO (commanding an economy the size of France)
- Regional Policy when even more companies are pulling out of the (repeatedly) shaken north
- Amakudari-Links when building up Tohoku
- The ability of the two major parties to reform

The disaster after all, had two sides: the natural disaster and a manmade crisis from the nuclear fallout. You can find my initial thoughts on the latter, the future of nuclear energy after Fukushima, here:

<http://jp.fujitsu.com/group/fri/en/column/message/2011/2011-03-23b.html>

(日本企業会社員、東京都)

(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月24日に受信 received on March 24rd

ロマンさん、日本への励ましそして異文化についての思いや考えをいただきましてありがとうございます。わたくしも自分なりに思ったことをまとめてたんですが、日本での報道がどこまで信じられるかということもはっきりいって、非論理的・非科学的で根拠のない報道に信用など全然していません。しかし今回は自然災害であり国などの対応の遅さや不備があっても全力で復興・回復に向かって全力で立ち向かっていると信じています。戦後の復興とも同様であるといわれています。ですから逃げ出すという概念ではなくて、逆に人々が助け合いました世界中の人たちが思いやりを持って日本の災害を見守ってくれて、安心感を覚えているという気持ちであります。日本人は日常の仕事に没頭していれば血圧を安定させているという表現は適当かわかりませんが、大枠で言うならば「皆が平和でいられることの幸福感」という感情を持っていると思います。ですから傷ついた東北地方の復興をただただ信じており、マスコミの報道の1日1日の報告を聞き「あーはやく復興しないかな」という気持ちでいっぱいです。原子力発電所もはじめから作るべきではないし、またあのような海に面したところにつくるのも問題だったのです。こうした失敗を通して、日本人のあるべき姿を今一度反省し見直す必要があると思います。放射能は大変危険ですが非論理的・非科学的なあいまいな文化である日本ではあんまり危険ではありません。またあれだけダメージを受けてしまうとあきらめ感も出てきているのは事実で、関東圏、東京の水の汚染や食品汚染、毎日広範囲な余震、ガソリンの不足や高騰、飲食物の買い占め、乾電池の買い占め、電力の低下、あらゆる不具合が発生しています。今後新たな火山噴火や大規模地震が起こるかもしれません。ロマン様にはこのたびご深慮なご一報をいただき誠にありがとうございます。どうかこのような日本ですが今後ともご指導、ご鞭撻をいただきますようよろしくお願いいたします。

(日本企業会社員、東京都)

(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月24日に受信 received on March 24rd

深い思いから出てきた文書、ありがとうございました。
現状と真剣に向き合い、ご自分なりに結論に達した様子が伝わってきました。

Ditzerさんがほめてくださったほど、勇気のある人たちばかりかどうかはわかりませんが、今回の状況を機に日本が大きく変わることは間違いないと思います。

お陰様で私の所は物的損害、インフラ上の損壊もなく、元気にしております。

原発に関しては、これがきっかけになって「脱原発」方向へと大きく流れが変わることを期待しております。

農産物、海産物への影響、また生産現場への影響など、今後の変化を見通すことは難しく、長い試行錯誤の時期が始まるのでは、と思っています。

[部分省略]

(自営業 東京都)
(from a self employed professional, Tokyo)

3月25日に受信 received on March 25th

[部分省略]

非常に興味深いご意見ありがとうございます。
確かに、ドイツを含めた欧州の方には、ロシアのチェルノブイリの記憶が甦ったため、過剰な反応になったのだと思います。
しかし、日本人も違う意味で、パニックになっていました。ご存知の通り、ガソリンや食料です。
私の周りの、[社名省略]社員でも、未だ車に半分もガソリンがあるのに、次はいつ入れられるかわからないので、3時間もの長い列にならんで給油しました。
計画的停電のおかげで、必要な時に食事が作れないかもしれないので、インスタント食料が品切れになりました。
特に東京や横浜の、これらの行動は一見すると非常に、整然とルールが守られた行列に見えますが、本当に必要だったのでしょうか？
特に日本人は、現在物にあふれた生活をしているので、好きな時に好きなものが買えない恐怖におびえているかの様に見えます。
常に携帯を触っている生活をしているので、携帯が繋がらない恐怖、肉親の安否がわからない事が、その恐怖を増増させ、みんなが一斉に電話をかけ続ける。そのために本当に連絡が必要な人の電話が繋がらない。
この点で言うと、ドイツ人があわてて、成田から帰国したのと同じ行為であって、本当に必要な事だったのか、考えさせられます。

それから原子力発電の問題では、我々は福島原発でたくさんの事を学びましたが、日本国内で中国の原発の安全性について考えている人は、どれ位いるのでしょうか？
大阪、京都位から西の日本は、いつも黄砂(偏西風に乗って中国から飛んでくる砂)に悩まされています。
もしも、中国で原発事故が発生すると、同様に放射性物質は簡単に日本へ飛んでくると思います。
中国の品質は日本では良く思われていません。程度の差はあるでしょうが、原発の建設・管理も同じと考えた方がいいでしょう。
自然災害が無くても、事故が発生する可能性は高いと思います。
その時に、多くの日本人は福島の時が大丈夫だったじゃないか、今回も問題ない・・・しかも、中国からは報道管制で正しい情報が入らない、と言う状況下で、多くの日本人が犠牲になるのでは、と私は心配しています。
その為にも、今日本は中国の原発開発にお金と人を無償で投入してでも、福島原発のヨコテンをしないとイケないと思っています。
ロシアの経験を生かして、自国の原発を全て廃止するドイツ、福島経験を生かして、隣国の中国の原発をより安全なものにする日本、あるいは、今の方針を継続する日本、、、

どの選択が正しいのかは、私もわかりませんが、学んだ事は次に活かしてこそ有益であって、そのために今何かを始めないと、無駄になると思っています。

これもまた私の個人的な意見です。

ご参考までに、、、

(会社員 2 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))

(from employee 2 at a German group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

3月25日に受信 received on March 25th

[部分省略]

違った観点からの意見ですが、やはり Ditzer さんは日本人に近い考え方をされるようですね。

未だ、日本人の根底には、私もそうですが、国が或いは企業が何とかしてくれるのでは、と言った気持ちが強いかもしれません。特に、企業責任に対しては国民の大半が非常に厳しい目を持っていますので、対応次第では東京電力と言えども経営危機に陥ることは簡単でしょう。少なくとも経営トップの交代は起こるかも知れません。

日本人の冷静な判断、やはり同一民族の特殊性、或いは地域単位の助け合い精神、戦後の復興への自信(日本人ならば、どんな苦難にも努力して成し遂げられる)と言ったものが根底にあるのでは、と思います。

私も欧州に長く住み、地域の方との触れ合い、殆どの国の方と仕事を通しての接点がありますが、いずれの国民もそれに近いものは持たれております。ただ日本人のそれは欧米人と比較にならないほど強固に思えます。韓国の人にも近いかも知れません。何から来るのでしょうか。いい意味での儒教的、封建的発想も起因の一つかも知れません。

正しいかどうか判りませんが、変わった意見もあるものだと思ってお読み頂いて結構です。

(日本企業会社員、東京都)

(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月28日に受信 *received on March 28th*

[部分省略]

2週間前の大地震発生以来、福島原発の事故や計画(無計画)停電の実施も相まって、我々、栃木工場の従業員も不安な落ち着かない日々を過ごしています。特に、原発事故に伴う放射能汚染に関しては、栃木工場が福島原発から約100kmしか離れていないこともあり、日々成り行きに注目しているところです。まだまだこのような日々が続くとは思いますが、こんな時こそ、冷静に一つ一つの事柄を解釈、判断することが大切だと考えています。

(会社員 3 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))
(from employee 3 at a German group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

3月28日に受信 received on March 28th

[部分省略]

震災から二週間経とうとしているけれど、まだまだ余震、二次災害は続いている状況で東京に住んでいる自分たちはもとより、今だ被災地で凍える中避難生活を強いられている人々の事を思うと胸が痛みます。

日本という国に生まれ育った上には地震に対する心構え、対策を子供の頃から教育されていたにもかかわらず経済の発展のスピードの中で危機管理に対する認識の甘さ、そして自然の力の大きさの前に尊い多くの生命を失うということの恐ろしさを現実に目の当たりにして本当に無力感を感じています。

ローマンを始め、海外に住む友人から日本を脱出する様多くの助言を受けて、その思いやりに感謝すると共に自分がこの国の国民で有るという事をあらためて考えさせられました。

自分の事だけを考えて、横浜という土地に生まれ、港に行き交う船とアメリカのベースに囲まれた町で育つ中、国境をこえて世界をまたいで自由に生きる事を幼いときから夢に見て生きてきた今の自分があります。

今回も、海外の友人からの助言をうけたときに真っ先に母と姉を連れて、会社を一時休業にして逃げる事を考えました。

その単直な考えを家族、友人に相談する中で、生まれ育った国土が破滅の危機にさらされている中、国籍を持っている事、この国の国民であるという事がただ住民票とパスポートを持っているという事だけではなく、家族、友人、共に仕事をする仲間に支えられて生きてきた事、その大切な人達の多くが困難に遭おうともこの国で生きて行くという決意を持っている(この国でしか生きられないと考えている)ことを思い知らされ、逃げる事ばかり考えていた自分のエゴにがくぜんとして、責任と不安感の間で不

安神経症になってしまい病院にまでかかるという情けない次第でした。いつも強がっているのに本当に情けない、と姉にも笑われてます。

ドイツを初め、今回の日本の震災に対する海外での報道が日本のそれとは随分差異があり、

[部分省略]

メディアが発信する側の視点で報道を行うのは当然のことなので差異があるのは当たり前です。

何を信じるか選ぶ事は自分でしなければいけないし、それは本当に難しい。

福島原発の修復迄、3-4年を要するだろうと今朝の枝野官房長官の会見で言われてましたし、現状も地域汚染は起こっていて被災者の経済復興の見通しは暗く、その上今回の地核変動に伴った更なる別の地域への大型地震の発生の可能性も言われてます。

[部分省略]

そして、今後正しい判断ができるかどうか自信はないけれど、自分の心の声に忠実に、出来るだけの事をして人生を送りたいと思います。

そして、日本の政治が豊かさよりも国民の安全を第一に考える方向に向かう様、祈って、行動していきましょうね。

(日本企業会社員、東京都)

(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月28日に受信 *received on March 28th*

[部分省略]

Thank you for your piece of thought.

My 2 cents of reply: Fukushima is hugely different from Chernobyl, not only from the technical point of view (Chernobyl's reactor was burning open for weeks), but from the fact that we did not have internet at the time of Chernobyl (and thus we were completely in the hands of the media, TV and radio regarding information about the potential dangers), whereas today, we can confront the exaggerations of the media with objective scientific data available on the Internet, for example, about the distribution of radiation in Japan's 47 prefecture in quasi-real time. I decided to stay in Japan because I trust the measuring instruments data –available on the net - for the moment.

(ヨーロッパ系組織職員、東京都)

(from an employee at an European organization, Tokyo)

3月29日に受信 *received on March 29th*

[部分省略]

我々、そして身近なパートナー達も地震では被害なく、今のところ変わりありません。

日本の原発トラブルがドイツでそんなに大きな騒ぎになっていたとは知りませんでした。

今現在、原発の状況は少しずつ悪化しており、解決の目処はたっていません。

既に、大量の放射性物質が漏れており高濃度の放射性の汚水も漏れておりますが、東京はいつもどおりです。

いつも通りに会社に行きいつも通りに買い物をしています。

不思議と皆、冷静です。

また状況落ち着きましたらぜひお目にかかれればと思います。

(日本企業会社員、東京都)

(from an employee at a Japanese company, Tokyo)

3月29日に受信 received on March 29th

[部分省略]

原発事故が報道された直後の日本人の反応は確かに冷静(あるいは鈍感)だったと思います。

ディッターさんが指摘されているように、多くのドイツ人(私も複数の友人から勧められました)が”すぐに東京を脱出すべし!”と考え行動したのとは対照的でした。なぜ、このような違いが生じるのか？

理由のひとつは、原発に対する意識の違い。ドイツでは市民の意識も高く反対運動がさかんで、メディアも大きく報道します。そして、チェルノブイリを経験しています。電力需要の30%を原子力に頼っている日本では、原発は当然なものとして受け入れられてしまっているのが実情です。それが国策でもあります。国民は漠然と原子力発電は危険と思っけていても反対運動はほとんどありません。原発事故の恐ろしさに関する教育も実施されていません。だから、政府の対応が後手後手にまわっても、不信感を抱きつつも、今ひとつ当事者意識に欠けてしまう。

もうひとつは、日本人のメンタリティーです。小さな島国(しかも人間が住める平地は国土のわずか30%)で厳しい自然環境と共存してきた日本人はとても忍耐強い国民です。今回の津波の被災者の忍耐強さは、まさに日本が誇るべき美德だと思います。原発事故に関して、この忍耐強さが吉と出るか凶と出るか最終的な判断ができるのはまだ先かもしれません。でも、首都圏に住む3000万人が一斉に避難し始めたら大変なパニックになっていたでしょう。

今回の原発事故では、メディアによる報道についてもいろいろと考えさせられました。ドイツでの報道ぶりを見ていると、悪いニュースはセンセーショナルに伝え、事態が好転してくるとトーンダウンするマスメディアの特性がとてもよくわかりました。また、日本人が都内で原発反対デモを行ったことなど、日本では一切報道されていません。(私はドイツのニュースで知りました。)いかに情報操作が行われているのかもよくわかりました。

首都圏に住む私が今感じていること、それは生活全てがリアリティーを失っている、ということなんです。

放射性物質？放射能汚染？そんなことが身の回りで起こり得るのか・・・うそでしょ、という気分です。

”日常”の仮面をつけた”非日常”を演じている感じなのです。

一日も早く”日常”を取り戻したい、そう願っています。

でも、この気持ちを一番痛切に感じているのは被災者と原発現場で復旧作業にあたっている人達です。

被災者の方々には一日も早い復興を、原発で作業にあたるの方々には、とにかく身体
の無事を願わずにはられません。

[部分省略]

(自営業 東京都)

(from a self employed professional, Tokyo)

3月31日に受信 *received on March 31st*

[部分省略]

日本がこの危機を契機に、これまでとは違う新たな社会へと転換していけることを願っています。もう「成長の物語」では進めないのだという、ここ10年くらいにわかってきたことが、この原発の事故でも決定的に明らかになったと思っています。

模索は始まったばかりですが、そのプロセスを世界の他の地域の人々と手をつなぐかたちで進めていけたらいいと思っています。このことを、きょう下記の記事をよんであらためて思いました。

<http://www.counterpunch.org/karatani03242011.html>

(自営業 東京都)

(from a self employed professional, Tokyo)

4月1日に受信 received on April 1st

[部分省略]

日本人の冷静な対処、反応に感銘を受けられたとのこと、一人の日本人として大変ありがたく思います。

しかし、地震後三週間を経てようやくその雰囲気が出てきたというところだと思いません。

初期段階の、保存食、ガソリンの買い占め、放射能濃度が基準を超えたとの報道後の水の買い占めなどなかなか冷静になり切れていないのも事実です。

先週ある団体のお手伝いとして宮城県、石巻市に支援物資を届けに行ってきました。沿岸部は車や家などが至る所に散乱し壊滅的な状況です。

街が泥で覆われてしまっているような印象です。

電気、ガス、水道など生活インフラの復旧にもかなりの時間を要すると思われます。

私の自動車産業という視点で見ても、ディーラー、タイヤ量販店、ガソリンスタンドなど全壊してしまっている所も多く、TOYOTA、HONDAを始め今後海外のメーカーの生産停止など中長期的な影響がでてくると考えています。

戦後最大の危機という話にもうなずけます。

被災地のみならず、関東圏、日本全体が沈滞ムードで消費は低迷し経済の減速も懸念されます。

こんな状況ではありますが、自分で出来ることを出来る限りやっていくほかないと思います。

[社名省略]では、販売する商品1セットにつき¥500を寄付または支援物資の購入資金とすることを決めました。またドイツ本社より€10,000の寄付も頂くことになりました。

長い道のりとなりそうですが、これを機会に、「省エネ」から「創エネ」の社会を構築し支援を頂いた各国の皆さんへ恩返しができるようめげずに頑張っていきたいと思いません。

(ドイツ企業日本代理店社員、東京都)

(from an employee at the subsidiary of a German company, Tokyo)

4月1日に受信 received on April 1st

[部分省略]

いつも色々のご心配を頂き、厚く御礼申し上げます。
貴地においても色々な情報が入っていると存じますが近況を連絡致します。
* 俗に言うエイプリルフールですが、内容は正確です。

東日本大震災と命名された、過日地震の死者は合計10000人を超え、行方不明者も含めると合計28000人近くになっています。特に、原発につきましては津波により非常用電源が停止、原子炉などの冷却機能が喪失。原子炉や使用済核燃料プール内燃料が損傷し、大気中や海水に放射性物質が拡散しております。この拡散で作業は難航しており収拾に数ヶ月かかる可能性もあると言われております。
又 現在、原発より20km圏内は避難、20kmから30km圏内に屋内避難指示が出ている状態ですが、弊社の主要工場である栃木工場は、150km離れておりその放射線量は1時間当たり0.05から0.1マイクロシーベルトで、全く問題有りません。この混乱期が収束致しましたら是非 又お出で頂ければと存じます。

一方 自動車各社は、被災地にある彼らの企業群の復興に向いて助ける等の協力を惜しまず続けていますが ほとんどの自動車会社が今週より約20%~50%前後の稼働を開始しており[社名省略]も合わせて生産を開始しています。
彼らは来週以降段階的に生産を拡大し6月末頃には正常生産化出来る様に推進しています。
又、大震災や原発事故に伴い発生した物流の混乱は収束に向かいつつありますが、原発事故に起因した電力供給不足問題は長引くと想定されています。経済界では既に計画停電以外時間帯での稼働を始めており、夏季期間における各製造業界毎の生産時間分散化、自家発電設備の活用などを検討しています。

全体的には、被災地の復興は原発問題を抱えながら長期化しそうですが、130ヶ国以上の皆様の支援を受け、再生に向けて一步一步歩んでいる所で御座います。

[部分省略]

(主要工場は栃木県にある日本企業の関連企業へのアップデート書簡 1(福島第一原子発電所より約150キロ))
(official information 1 from a Japanese company with the main plant located in Tochigi prefecture, 150km from Fukushima)

4月5日に受信 received on April 5th

[部分省略]

お便りをいただいてから、さらに10日が過ぎようとしています。直ぐに返信しようと思いましたが、原発問題が収まってからと思いつつ未返信のまま10日が過ぎてしまいました。

いまだに一進一退を繰り返しており、私達の想像をはるかに超える状況のようです。しかし、原子炉本体が爆発したわけでもなく、運転中の事故でもありませんでした。従って、放射能汚染の拡散は極めて限定的との見方がなされています。とはいえ、まだ解決した訳では在りませんから、危険はまだ取り除かれてはいません。

世界中の協力を得て、最善策を模索している最中にあるのが今の状況です。私個人として、対処にこれだけ長い時間が掛かるとは思っておりませんでした。1ヶ月ほどで、低温停止されるものと思っておりましたが、今はそう願う気持ちに変わりました。

また、地震による津波の傷の深さが、日を迫る毎に大きくなっていくことを実感しております。

死亡が確認された人が12,000人、今だ不明者を含めると27,000人の犠牲者が出ております。

この数字は、残念ながらまだ増えることでしょう。

この復興には10年以上の歳月を必要とすると言われております。

これらのことは既にインターネットで世界中の人が知っているようですから、改めて書くことは止めておきましょう。

さて、その中で日本人とドイツ人という見方を私なりに考えて見ますと、日本人が冷静に行動したのではなく、日本人は農耕民族で土着性が高く、恐ろしいことがあっても我慢する。

極端に言うとも餓死してもその地にこだわる場所があるのではないかと思います。

従って、「騒ぎが起きても、簡単にはその地を捨てることができない」と言う思いが強いのではないかと思います。

国境が隣接していないので略奪され辛い分、土地に対する思いは強いのではないかと思います。

その点、ヨーロッパの人たちは、土地に対するこだわりは少ないのではないかと感じます。

土地を捨てても身を守るの方が大事だと考えるところが強いと思います。

もちろん日本人も身を守りますが、その場所を死守することを選ぶ感覚も同時に存在します。

そんな思いも背景には在るような気がしています。

今回の原発事故は、日本人もとても心配して見つめています。
ドイツの人たちが原発に反対して、今回の事故によってその運動に拍車をかけていることは、
地球の長い将来にとっては正しいことなのかもしれません。
一方で、人類の進歩に何がしかのエネルギーが必要なことも確かですし、
その一つが原子力であり、その有効利用のために世界中で知恵を絞っていることも事実です。
私は、時の流れの中で人類が原子力に頼る時期が存在することは避けられないと考えています。
ですから、今回の事故は驚きで、一刻も早く収束してくれることを願うだけです。

世界中の力を結集して、原子力の脅威をコントロールすることを願ってこのメールを終わりにします。

(会社員 4 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))
(from employee 4 at a German group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

4月15日に受信 received on April 15th

[部分省略]

日本からの現状レポート(4月15日発信)

日本は東日本大震災発生から1ヶ月が経ちましたが、我々の現状を連絡したいと思います。初めに、放射能汚染や海水汚染を発生させてしまった事、政府の様々な発表が遅く情報を小出しして様々な混乱を発生させております事に対し日本国民として皆様へ心よりお詫び申し上げます。各大学・研究機関の公表されるデータから汚染の範囲については徐々に明確になっていますが、公表されるデータからフクシマに関してはまだまだ予断を許さず終結には時間がかかると考えています。

勿論、当社各事業所はフクシマから150km以上離れ4/12現在の放射線量も平年と変わらず汚染からは回避されると思います。又、私自身 美味しい刺身と美味しい野菜を楽しみながら美味しいワインを飲みつつ頑張っています。

生産に関しましては、各自動車会社も生産を再開していますが各社の協力企業が広範囲に渡り被害を受けている為、まず、現地調達率も高く影響が少ないKD部品から生産を開始しています。しかしながら、サプライチェーンに甚大な被害(欠品)が発生しており、現地法人の生産にも問題が発生しています。又 生産再開にこぎ着けたものの未だ半分程度の生産量であり、国内生産含めたすべての車種を、100%の生産量で生産出来るのはまだまだ先と思われれます。

一方自動車工業会は夏季の電力不足(約25%)に対応する為、各産業界が輪番制の休日を取る事を提案(例:自動車会社は月・火休日等)しており、弊社も目の前の生産減少への対応且つ夏季電力不足に向けて、稼働体制見直し中です。

尚、日本には古来から男気(義侠)、つまり“自分よりもっと大変な人を助ける”と言うDNAが脈々と流れておりますが、このような状況下当社は我々よりもっと大変な状況下にある被災地支援の社内ボランティアを募り、全社員の半数以上の参加者を得ました。まず、第1陣が来週から現地へ行き、今後交代で継続的な支援を実施して行きます。1ヶ月前、甚大な被害に襲われた日本ではありますが我々は下を向いていません。上を向いて、ゼロスタート、より以上に飛躍する決意を持って推進して行きます。

最後に、皆様の国始め色々な国のさまざまな方々が、違ったアプローチで手を差し伸べて頂いている事に関し、心から感謝申し上げます。本当に有難うございます。

(主要工場は栃木県にある日本企業の海外関連企業へのアップデート書簡2(福島第一原子発電所より約150キロ))

English version

[部分省略]

One month has passed since “The Great East Japan Earthquake 2011” on March 11th, I would like to report on our current condition in Japan.

I apologize for the occurrence of radioactive contamination and seawater contamination, and the confusion caused by late and little by little publication from our government. Although released data by each universities and institutes have made clear the scale of contamination little by little, we can't foresee what will happen to “Fukushima” and I think it will take us some more lead-time to solve the problem of “Fukushima” completely. All [company name] facilities are located more than 150 Km far from “Fukushima” and radiation level on April 14, 2011 is the same as normal, and I think all facilities will be spared from contamination. As for myself, I am working hard whilst enjoying delicious Sashimi, nice vegetables, and by drinking excellent wine of Japanese produce.

Because of high local content ratios at their transplants each automotive company restarted production with supplying knockdown sets (CKD) to their foreign production sites. But as the whole supply chain from particular domestic suppliers in East Japan has suffered heavy damage (parts shortages), some of the transplants are also having to cut their production.

Although each automotive company realized to restart production, production volume is still at 50% and it is a long way to go before returning to 100% production volumes of all models.

At the same time, in order to correspond to the prospected electricity shortages (25 percent) in summer season, Japan Automobile Manufacturers Association (JAMA) is proposing that each industry takes fixed rotating holidays (e.g. a member company of JAMA would take Monday & Tuesday as holiday) to Japan Business Federation/Government. We are also corresponding by adjusting current production and reviewing operation system in summer against electricity shortage.

By the way, in Japan the traditional values of “chivalry” and “generosity” have been handed down from generation to generation, one of these being “to help people in a more serious condition than oneself”. At present this clearly applies to the people in the disaster stricken area.

Appealing to this particular part of the Japanese DNA [company name] recruited in-house volunteers for support activities in the disaster area. More than half of all employees volunteered and the first group will go there (far from Fukushima) next week. We will continue to support the affected areas with rotating groups.

All in all, we, the Japanese people, have not abandoned ourselves to despair, although the devastating earthquake on month ago took thousands of lives and brought heavy damage upon our country. Looking upward, we will start anew,

determined to make rapid progress and to create something that is even better than what existed before.

Finally, I thank you very much for your country's help and support. All kind of people in different countries are extending their helping hands to Japan, each of them with a different approach and method, and all help is very welcome. Again, I really appreciate it from the bottom of my heart.

(official information 2 from a Japanese company with the main plant located in Tochigi prefecture, 150km from Fukushima)

4月19日に受信 received on April 19th

[部分省略]

改めて皆さんのコメントをゆっくり拝読していると、[一つ]のコメントにあった「村八分」や「和」の考え方など新しい気づきがありました。
ありがとうございました。

震災から1ヶ月以上が経ち、新聞の紙面構成、テレビ番組、スーパーマーケットの品揃え(缶ビールやヨーグルトは未だに品薄ですが)など平常時の状態に戻ってきました。

ただ、原発は小康状態を保っているとはいえ未だに予断を許さない状況です。
原発施設での新たな損傷箇所や高濃度放射能汚染の発見といった情報は日常化し、メディアでは各地方の放射線量が定期的に報道されています。
これが”日常”になってしまいました。

朝日新聞社が4月16・17日に実施した世論調査の結果【()内は2007年の結果】:
原発を増やす5%(13%)、現状程度51%(53%)→容認56%(66%)
原発を減らす30%(21%)、廃止11%(7%)→反対41%(28%)

容認派は随分減ったものの、それでも半数以上を占めています。

私はどうかというと、「減らす」かな。

天然資源に乏しい上に現在の東京一極集中を考えると、代替エネルギーで原発分全てをまかなうのは非現実的(温暖化の問題もありますし)とも思えますが、技術力を駆使して天然ガスによる発電やCCS [Carbon Dioxide Capture and Storage 二酸化炭素回収貯留]を推進していく、そして同時に再生可能エネルギーの活用を普及させていけば可能ではないだろうか。

そのためには強力なリーダーシップが必要です。

今みたいに国と電力業界が癒着してはダメに決まっている。

日本には、緑の党のような息の長い断固とした環境政党が無いことも痛いのかも。

ドイツの展開は楽しみです。政権自体が右往左往している様子は格好良いとは言えないけど、勇気を持って方針転換し、広く議論を尽くしていこうとするドイツは頼もしく思えます。Energiewende [ドイツ語:エネルギー革命、エネルギー政策の転換]をやっているのけるんじゃないか、そんな期待をしながらドイツを見えています。

(自営業 東京都)

(from a self employed professional, Tokyo)

4月24日に受信 received on April 24th

[部分省略]

[ずっと]全然返事ができませんでした。今回の悪夢のような大災害について、思うこと考えることを英語で書くのは私には無理なので、日本語で一度メールを送ろうとしました。

凄く長い文章になり、それでも書き足りず、一度保存箱に入れて、後日また書き足そうとしました。2日くらいたってその時に書いたものを読み直してみたら、わけがわからないことだらけで、送付をやめて削除してしまいました。冷静に書いたつもりが、すごく感情が入りっていたのだなああと自分で思いました。

書いたことは、、、、、、東電や政府のこれまでの隠ぺい体質は事実で、それ故、人々に不安をもたらしてはいるけれど、日本の政府は大騒ぎするくらいそんなにバカではなく、こんな悪夢のような大災害に際して、本当に大事な情報を外に出さないなんていうことはない、、、、ということ、その時は言いたいと思いました。

それ以外の私の書いた長い長い文章は、今回の災害がどれだけ悲惨かということで、「妻と子供二人をなくした34歳の会社員男性」「両親と弟を亡くした12歳の男児」などなど、こういう悲しい状況の真ただ中にいる人々がどれだけ多くいるか、そしてそれぞれの立場でどうやって立ち直ろうとしているか、というようなことを書きつづりました。あまりに悲しくて、感情移入しすぎたものなので、後で読んだときに何か少し恥ずかしいような気がしてきて、思わず削除してしまったというわけです。

[部分省略]

あの日以来、新聞をほとんどすべてのページに目を通すようになりました。新聞の情報がすべてではありませんが、目が離せません。福島第一原発の廃炉や一部の修復などの計画が大まかにはできたものの、まだまだ落ち着かず、周辺20km、30km以内に済む人々の移転問題やら仮設住宅やら、一つ一つ数えたら気が遠くなるほどの多くの問題に向き合い、その重圧で押しつぶされそうな思いを人々が抱えています。

東電と政府が損害賠償をどのように行っていくか、そのお金をどのように確保するか、悪夢のような大災害が残した傷は、いつまで痛み続けるのでしょうか？私は、今後の日本について、凄く悲観的な考えを持つ一人です。

[部分省略]

(自営業 神奈川県)
(from a self employed professional, Kanagawa prefecture)

4月28日に受信 received on April 28th

[部分省略]

日本からの現状レポート(4月28日発信)

General topics:

4/28(木)現在、死者・行方不明者は約26,000名、負傷者は約5,300名、家屋全壊は約77,000戸、建設被害322,500戸、避難所への避難者は約174,000名です。

Specific issues:

フクシマに関し、対象電力会社は事故収束に向けた工程表を、発表しました。今後3ヶ月を目途に冷却し放射線を着実に減らす、6~9ヶ月を目途に抑制/監視・除染を実施し原子力発電安定化、放射物質の外部放出を抑える計画です。上記計画に伴い政府は、4/21日に半径20km以内は原則立入禁止の警戒区域(対象者約10,000人)、20km~30km範囲で20ミリシーベルト/年間想定を基準に、放射能調査結果に基づいて基準を超える測定区域は緊急避難準備区域(対象者約67,000人)が制定され各市町村長に指示を出しました。20km以内は、5月末までに順次避難します。尚、土壌汚染は現在注意深く確認中です。

弊社事業所は、[部分省略]工場、[部分省略]工場、[部分省略]本社共に全く問題有りません(別紙の様に150km以上離れています)。放射線量計を購入致し毎日測定をしていますが0.047~0.057マイクロシーベルト/時間(0.57ミリシーベルト/年間想定)前後で4/4日以降、平年の平均値を前後しています。

Automotive industry:

大手乗用車企業は4月から平均約50%前後の生産を開始しています。但し、今回ダメージを受け、部品供給に影響が出ている被災地の協力企業は現在、半導体、ゴム、樹脂部品に絞られてきたものの日本国内だけでなく、北米・欧州・中国・東南アジア等海外現地法人や、海外自動車会社サプライチェーンへも深刻な影響を出しています。各大手自動車会社では被災地協力企業の再開・挽回を考慮の上で、生産が拡大してくるのは7月以降、生産台数が正常化するのには晩秋以降と発表しています。又、日本自動車工業会は夏季節電の為に6月末から9月末までの間、土・日曜の代わりに平日2日を休日にする方針を固めました。今後節電対象外地域の自動車会社への統一行動の要請すると共に、休む曜日に関する決定を他業界の動向を見ながら決定します。

[社名省略]

現在、毎週後半に翌週の稼働体制を各御客様の稼働情報を慎重に確認しながら決定し御客様の要求に沿った形で工場運営中です。又夏季節電に向けて1日の内で最大電力を使用する時間帯の稼働を避けた形での稼働体制を決めて、慣らし運営中です。

トピックスとして 4/21(木)~23(土)の間、社長を筆頭に総勢 24 人の[社名省略]社員が被災地の一部(宮城県名取市)へ復興手伝い(ボランティア)に行きました。津波による爪痕が激しく残っている現地では、船や車と瓦礫が 3~4m 積まれている事や、一面瓦礫の山の風景に言葉を失いました。我々は泥にまみれた公民館・家屋の泥出し、泥拭き等の作業を中心に皆 計画の倍以上のペースでこなしましたが、同時に被災地にいる方々の困り具合を報道されている以上に肌で感じました。次回は又同人数が、4/27(水)~28(木)で実施する予定です。

Final message:

現在迄に、142ヶ国及び 39 国際機関から支援を頂き、その中で 20ヶ国からは援助隊や医療チームが来日し活動をして頂いている事を 再度心から御礼申し上げます。誠に有難うございます。皆様の御支援の下、少し長い道のりになるとは存じますが忍耐力と助け合いの精神で立ち直ります。

[部分省略]

ボランティア参加感想 2011.4.27

未曾有の大災害、国家的災難のこの時、災害を受けなかった私達は平然と生活していて良いものかと、日本国民誰しもが心に思っている事でないでしょうか、如何に行動に移すか悩んでいる時に、社長から良い機会を頂きました皆で支援に行こうと言う事で、社内でボランティア参加希望者を募りました処なんと 173 名の方が登録して頂きました、社員皆さんの関心の高さに驚かされました一次隊は社長以下 21 名、還暦を迎えました 2 名と 20 代の若者しかし現場で一番活躍されたのは社長でした、その活躍には他の 20 名全員が奮い立たされました。

第一現場は自治会館(小さな公民館)ボランティア事務局の試算では3日間は(清掃完)掛かると思っていたのですが[社名省略]パワーで1日で完了させてしまいました、事務局では大変な驚きようでした、チームワークの素晴らしさでした。

テレビや新聞で見ると実際現場を見るのでは大違い、これほど悲惨な光景は行って見て初めて解るし、現地の方の話を伺うと更に地震と津波の恐ろしさが解りました、自治会長さんは津波が来る避難しなさいと町内に振れ回っている最中に津波にさらわれ丸太にしがみ付いていて助かったそうですが、震災後の今後を考えると助かった方が良かったのか死んでしまった方がよかったのかと嘆いていました、それ程ひどい惨状なのです、自治会館は海から約 4 km 離れていますがその廻りには漁船やプレジャーボートそして車がガレキと共に横たわった状態です、辺り一面田んぼですがガレキとゴミだらけそして今だ海水が残った状態です、稲作が出来るまでには 3 年から 5 年掛かるそうです、それまでの生活基盤は全て津波にさらわれてしまって何も無い状態です、同じ名取市でも仙台東部道路を隔てて海よりは悲惨な状態ですが山よりは私達が住んでいる鹿沼と変わりません、そこで暮らしている方々の意識の違いは天と地程の乖離があるそうです、やはり当事者でないと解り合う事が

出来ないのかと寂しい気持ちになりました、今回[社名省略]の若い社員が多く参加して頂

き良い社会勉強となったと確信致しました、これからも一人でも多くの方の参加を望み私の感想の締めにあたいと思ひます。 以上。

(主要工場は栃木県にある日本企業の海外関連企業へのアップデート書簡 3(福島第一原子発電所より約 150 キロ))

English version

General topics:

As of Thursday, April 28, some 26,000 individuals have been listed as dead or missing, while an additional 5,300 were injured; 77,000 houses have been completely destroyed, a further 322,500 buildings are damaged to some considerable extent, and about 174,000 people have had to evacuate to various evacuation centers.

Specific issues:

The local electricity utility [TEPCO: Tokyo Electric Power Company] has published its schedule for restoration of the severely impaired Fukushima nuclear plant. Their plan anticipates a steady reduction in nuclear radiation emissions through cooling of the damaged reactors within about three months; control, monitoring, and decontamination activities within six to nine months; stabilization of nuclear power generation, and restraining the emission of radiation externally. Following announcement of the above plan, on April 21 the government advised the heads of all local municipalities within a 20-km radius of the plant that the area was designated a “controlled area” and was therefore generally off limits (a decision which impacted about 10,000 residents). Based on predicted annual radiation levels of 20 millisieverts (mSv), areas within a 20 ~ 30-km radius have been declared an emergency evacuation preparation zone (affecting some 67,000 residents), along with specific localities where higher readings than the permissible reference values have been measured as a result of radiation checks, and instructions have been issued to the heads of those local municipalities. An orderly evacuation of all areas within a 20-km radius is planned by the end of May.

None of our business sites have been affected by these measures. (All are more than 150 km from the affected region.) We have purchased radiation dosimeters and check the measurements every day. Our records show levels of around 0.047 ~ 0.057 microsieverts (µSv) per hour (cumulative annual dose: 0.57 mSv), which has been fluctuating at around the average values for a normal year since April 4. Currently, we are also carefully checking for any soil contamination.

Automotive industry:

The major automotive manufacturers restarted production at about 50% of prior capacity from April. However, suppliers have been seriously affected by damage from the recent earthquake and tsunami, and supply problems persist with

component manufacturers in the afflicted area, notably concerning semiconductor, rubber, and resin parts. Affiliated companies in North America, Europe, China, and Southeast Asia, etc. and the overseas automotive supply chain have also been seriously affected as well as domestic companies. The major car companies announced that they expect to boost production levels from July or later and hope to return to normal production levels by late autumn or thereabouts taking into consideration the efforts needed by suppliers in the afflicted area to recover and restart.

The Japan Automobile Manufacturers Association, Inc. (JAMA) decided to implement a policy of closing for two days during the week rather than at the weekends from the end of June to the end of September to curb electrical demand during summer.

We will decide on which days to close while checking the approaches taken by other industries as well as calling for standardized action by the automotive industry in areas other than those targeted for power cuts.

[company name]

We will decide our operating schedule for the following week during the latter half of each week while carefully monitoring the operational status of our clients, and are currently operating our plants to meet their demand. We have also decided on an operating system that strives to avoid imposing the maximum electricity demand during the day, and are currently tweaking our operations to save electricity during the summer.

As an aside, from Thursday 21st to Saturday 23rd of April, a total of 21 [company name] employees headed by our President visited one of the afflicted areas (Natori City, Miyagi Prefecture) to provide volunteer support for their recovery efforts. In some of the localities worst affected by the tsunami, the team was lost for words at the sight of three- to four-meter high piles of debris, topped with pulverized boats and cars, etc. The volunteer team mainly removed mud from the Community Center and various houses, and managed to clean their allotted buildings at twice the pace expected in the schedule. At the same time, however, everyone involved became much more acutely aware of how seriously the victims have suffered – far more so than is understood from media reports.

We are repeating this exercise with the same number of employees volunteering from Wednesday 27th to Thursday 28th April.

Final message:

We sincerely appreciate the aid we have received to date from 142 countries and 39 international organizations, including the twenty countries that have sent aid and medical teams to Japan to provide help. On behalf of all recipients of this largesse, we would like to express our heartfelt appreciation, and boosted by your support, we will do our best to get back on our feet with patience and a spirit of mutual assistance, although we are well aware that the road ahead is long and hard.

[部分省略]

Impression on volunteer by team-leader of 1st volunteer support team
(Date is April 21,22,23)

Key word is continuing to act what we can do, and what we should do.

After I watched Earthquake and Tsunami in east Japan side, I had been concerned how I can do and what I should do to victims. Our President & CEO provided very good opportunity of volunteer support to victims. After I raised volunteers in [company name], I was glad that 173 employees registered to this program.

1st team of selected 19 members from young generation and age (our President and I) went Natori city. 1st house was small community center and although estimation of work load for cleaning by secretariat of volunteer was three days, we finished only one day. Because our President took initiative in carrying out that very hard work though he was not so young, all other young employees carried out vigorously. We carry out same work style to other houses in the 2nd and 3rd days, and the secretariat was surprised how fast our team is.

At the same time, we watched the field of disaster and we were shocked that we have never watched such sight with very serious damage directly, also we much more aware how earthquake and Tsunami was serious by talking with people in field. General of the community center said that at the time of the disaster, he was in the middle of informing "sheltering from Tsunami" by speaking trumpet to inside of city, once the Tsunami pounced on the city, he was washed away by Tsunami and he fortunately could survive by being fastened to lumber.

Although distance between ocean and the community center is 4 km, there were three- to four-meter high piles of debris, topped with pulverized fishing boats, pleasure boats, and cars etc. around the center. That field used to be rice a field, however rice won't be able to be made for 3 to 5 years, because it will take 3 to 5 years to reduce damage from salt. There is nothing for base of life around there, because all bases were washed by Tsunami.

Even though we were shocked by watching and hearing very serious disaster in the field and very serious condition for victims, I'm sure that our younger generation received instructive society work and experience. Therefore it is important to continue volunteer support as not only an employee of [company name] but a citizen of Japan.

(official information 3 from a Japanese company with the main plant located in Tochigi prefecture, 150km from Fukushima)

5月4日に受信 received on May 4th

[部分省略]

あの津波からおよそ2か月が過ぎようとしています。

自然災害でも人災でも状況が安定すると、あるいは状況が不安定なままで安定すると、メディアは「犯人探し」を始めます。今回は、菅首相、東京電力、原子力保安院が犯人あるいは罪人として責められています。新聞やテレビがこれを始めると、一般の人々もそれに同調していきます。確かに、これらの人々に落ち度はあったでしょう。でも、これら関係者が別の人だったからといって、事態はもっと良好に推移したでしょうか。

私は、今回の原発事故は「日本」というシステムの脆弱さを見せつけていると思います。現在の日本の政治の中核、大企業の幹部は皆、過去1世紀の間に構築され、強化され、ほぼ固定された日本システムの一員なのです。このシステムは、東大卒のエリートによる支配、天下りによって成立している企業と役所のもたれ合い、すべての権力と機能の東京への一極集中を特徴としています。私たち一般市民の大多数も、それを当然のこととして容認しているという点で、このシステムの構成員です。

私は今回の空前の災害をきっかけに、「東京の一極集中状態を解消するべきだ、政治機能、産業を地方へ分散させよう」という議論が高まると思いました。もし、震度7レベルの大地震が東京で起こったら、「想定外」の被害が東京で起きたら日本は国家として機能するのか、と誰もが危惧しているだろうと思ったからです。ところが、そのような議論は起こりません。阪神大震災の時もそうでした。一瞬、そのようなことが言われたこともありましたが、すぐに忘れ去られてしまいました。東京で阪神大震災並みの地震が起きたら、災害は神戸のそれをはるかに上回ることは想像に難くないにも関わらず。

4月24日に行われた福井県敦賀市の市長選挙で、原発推進派の市長が再選されました。ドイツのバーデンビュルテンベルク州の選挙で、日本の福島原発事故を契機に緑の党が大躍進したのとは対照的です。どうして日本ではドイツのような原発反対運動が盛り上がらないのでしょうか。それは、原発は通常大都市ではなく地方にあり、原発が地方自治体に「原発交付金」という多額のお金を運んでくるからでしょう。でも単純に「お金欲しさに」原発を容認しているのではないと思います。原発がなければ産業もなく、日本＝東京の繁栄とは裏腹に地方は過疎化が進み、衰退する一方だという危機感が、敦賀市の人々を原発容認に仕向けているような気がするのです。

「のど元過ぎれば熱さを忘れる」を繰り返しては、強い日本、安全な日本は作れません。これまでの自然災害と今回の原発事故を教訓として、日本各地の経済をバランス良く発展させることと、首都東京のバックアップ機能を担えるような都市を2、3カ所作ることを真剣に検討すべきだと思います。そのためにも、まずメディアが原発事故の責任追求ばかりしていないで、こうした提言もしてほしいと切に願います。

日本のどこに活断層が走っているか地図を見たところ、日本海側、特に山陰地方に活断層が少ないようです。中国市場にも近いし、山陰地方にも1つ主要都市があってもよいのでは？

(自営業 ベルリン)

(from a self employed professional, Berlin)

5月18日に受信 received on May 18th

[部分省略]

日本からの現状レポート(5月13日発信)

General topics:

5/10(火)現在、死者は約15,000名、行方不明者は約9,900名、避難者は約117,000名です。

東日本大震災の先に見えて来た物(この欄は弊社社長から皆様へのメッセージを送ります)日本が"本来の有りべき姿"に戻るチャンスは今この時に。

東京の夜空に星が戻ってきています。

大震災前は決して見えなかった私の東京にある自宅からも、今は星が綺麗に見えます。

これは、東京が私の大好きな街ベルリンやシュトゥットガルトと同じ本来の明るさに戻った為です。

街中の街路灯は間引きされていますが、生活には何の不自由もありません。

翻って考えるに"今までのこうこうとした明るさと大量の電力消費はなんだったんだろう"と思います。

同じ事が日本人の全てへのブランド志向にも当てはまります。食物に関して言えば例えば卵は烏骨鶏(うこっけい)、お米はコシヒカリ、納豆はお亀納豆に限る等、産地・銘柄にこだわってきましたが、大震災直後流通機能が一時麻痺状態に陥り店頭から上記食物が殆ど無くなった時、消費者は店頭にある物を購入し産地・銘柄などにこだわっていられませんでした。

食糧事情が落ち着いてきた今、産地・銘柄にこだわらなければ調達はなんとでもなるという事も判ってきました。原点にさかのぼって考えれば、"今まで日本人は消費は美德と言う誤った文化の下あまりにも贅沢な生活をしてきてしまった"という事を大震災により気付かされた"と感じています。又、同じく大震災から、非常に厳しい困難とその復興と言う長い試練を受けましたが、それと同時に"日本は環境国家に大きく変貌する契機、つまりはチャンスを頂いた"と捉えています。

日本は確実に変わります。それが今回御支援下さった世界中の皆様への恩返しだと思います。

Paticular problem:

フクシマに関し、3ヶ月(2011年7月迄)を目途に冷却し放射線を着実に減らす第1ステップの内、第1号機でタービン建屋や原子炉建屋にたまった水を原子炉に戻し冷却に使う「循環注水冷却」という新たな方法を、6月中に実施するべく作業中です。続いて第3号機、第2号機の順で同様の対策を7月にかけて実施してゆきます。

尚、第2ステップの「核燃料の冷温停止状態」に持ち込めるのは6ヶ月～9ヶ月後としています。

但し、1号機はメルトダウンを起こしており2、3号機もメルトダウンの可能性があり、東京電力は当初発表した工程表に関しては維持すると発表していますが、予断を許さない状況です。

政府は国内にある全ての原発54基の海側に2013年の完成を目指し、15mの防潮堤を設置する工事に着手しました。又、近い将来地震発生が予測され、非常に懸念されている静岡県浜岡原発の停止を中部電力会社に要請し、5/16日までには停止し、少なくとも防潮堤の完成までは再開しない事に決定致しました。

最後に菅首相は、2030年に向けた長期的なエネルギー政策に関しても原子力発電依存(50%)から太陽光発電、風力発電化及び省エネルギー社会化実現へ見直す方針を表明しました。

尚、弊社全事業所は、全く問題ないので更新情報は有りません。

Automotive industry:

大手自動車会社の5月生産は、商業車や一部超小型車の生産は部品供給に関して比較的ダメージが少なく現在震災前の70%程度以上にまで生産量が上がってきていますが、大半を占める普通乗用車に関しては4月と同じ50%程度の状態です。

但し、大手自動車会社各社の協力企業への継続的支援の甲斐があり、電力供給不足問題はありますが6月より生産量が大幅に増加され、生産正常(100%)化は当初見通しより大幅に前倒し出来てきて初夏の予定になっています。

尚、夏の節電対策に伴う休日変更に関し自動車工業会は7月から9月の間”土曜、日曜を出勤し 木曜、金曜を休日扱い”とする事を決定し周知徹底を今後実施します。

[社名省略]

5月の稼働体制は、継続して毎週後半に翌週の稼働体制を回復の度合いが違う各御客様の指示及び稼働情報を慎重に確認しながら決定していますが ほぼ週3日稼働となっていました。

但し、上記の様に御客様の生産挽回時期が大幅に前倒しされてきたので 5/16日週より御客様の生産正常化に向けた準備を開始します。

[ボランティア活動 4/27,28]

トピックスとして 前回と同様に4/27,28日被災地の一部(宮城県名取市)へ復興手伝い(ボランティア)を実施してきました。今回は集会所を割り当てられ、床板はがし・瓦礫撤去、壁の取り壊し等を実施致しました。数十メートル離れた隣の民家で自衛隊の捜索活動中に遺体が発見され警察と身元確認作業を行っている様な環境の中での活動となり、被災地の方々は震災から1ヶ月半経っても3/11日から意識が未来に向かえない現実を思い知らされました。

尚、[社名省略]メンバーはチームワークが良く作業がはかどるボランティアとして非常に感謝されています。

やはり何事も活動は常に問題意識を持ちながら 愚直に粛々と絶え間なく継続する事により、先が見えるものだと感じました。

勿論、[社名省略]本来の義務であり仕事である 今後の急回復に向かう各お客様要求に 100%答える事を第1優先で推進しますが、可能な限り ボランティア活動は継続して行きます。

(主要工場は栃木県にある日本企業の海外関連企業へのアップデート書簡 4(福島第一原子発電所より約 150 キロ))

English version

General topics:

As of May 107h (Tuesday), the number of confirmed fatalities stood at about 15,000, while a further 9,000 remain unaccounted for, and about 115,000 evacuees are living in shelters.

Prospects following the Great East Japan Earthquake (Message from President):
Now is the time for Japan to get back on its feet.

The Tokyo night sky is awash with stars again.

It used to be all but impossible to see any stars from my house in Tokyo before the great earthquake, but now I can see them beautifully because the brightness of the evening sky in Tokyo has reverted to how it was - just like in my two favorite cities: Berlin and Stuttgart.

Although the streetlights in urban areas have been dimmed, this has not caused any problems with our daily lives. This leads us to ponder: "Why did we need to consume so much electricity and bathe our streets in excessive light?"

The same applies to the typical Japanese brand-oriented mind-set towards everything. In terms of food, we used to be peculiarly fussy, for example, only eating eggs laid by silky fowl, demanding Koshihikari rice, and Okame Natto (a brand of fermented soybeans), but the great earthquake severely interrupted product distribution for a while, and when those items were out of stock on the shop shelves, consumers simply purchased whatever else was available at the shop without sticking to a specific product area or brand, etc.

Now the status of food has settled again, and we discover that procurement can be no problem if we don't stick to any specific product area or brand.

Looking back and taking stock, we realize that the Japanese populace has enjoyed an excessively lavish lifestyle under the flawed concept of "consumption is good". The great earthquake has presented us with an opportunity to recognize that. We have to overcome the serious difficulties caused by the earthquake, and address the challenges for recovery, but at the same time, we believe that this is an excellent opportunity for a significant shift throughout Japan to become an environmentally friendly country.

Japan will certainly change. That's what we can do to repay the kindness of people all over the world who have recently offered their support.

Specific issues:

With regard to the Fukushima power plants, the first step is to steadily reduce the amount of radiation within three months (by July 2011) through cooling . In the

case of No. 1 reactor, the intent is to Set up new method of "pouring circulate water from building of atomic pile and turbine to cool " within June . The same measures will then be applied to Plant No. 3 and No. 2 respectively in July. It was announced that the second step of the "nuclear fuel shutdown and cooling status" is scheduled to be implemented after six to nine months. However the meltdown was occurred at the No. 1 reactor and there are possibility of meltdown at the No.2 and No.3, therefore although Tepco published that they will still carry out in accordance with their last schedule for restoration, we can't foresee what will happen.

The government has started construction of 15-meter high tidal barriers which should be completed in 2013 along the shorelines of all 54 nuclear power plants in Japan. The government requested Chubu Electric Power Co. to consider suspending operation of the Hamaoka nuclear power station in Shizuoka prefecture, which is considered to be at high risk of a major earthquake in the near future, due to its serious concerns, and the company decided to accede to the request with a stoppage by May 16, and will not reactivate the power station at least until the tidal barrier is built.

Finally, Prime Minister Kan announced a policy to review long-term energy measures towards 2030 with a shift from dependence on nuclear power generation (which accounts for 50% of supplies) in favor of solar and wind power generation, as well as efforts to become an energy-efficient society.

Our business sites are not currently experiencing any problems, so there is nothing to update.

Automotive industry:

The major car companies saw production volume of commercial vehicles and some of their smallest models increase in May to over 70% compared to pre-quake volumes before the great earthquake as the damage to parts supply has been comparatively less, but it is still only about 50%, unchanged from April, in the case of ordinary passenger vehicles, which account for the majority.

However, thanks to ongoing support from major car companies to collaborating companies, production volume is set to significantly increase from June despite problems with electricity supplies. A return to normal production volume (100%) has been brought forward significantly compared to the original forecast, and is now expected in early summer.

In order to save electricity during the peak summer months, the Japan Automobile Manufacturers Association, Inc. has decided to change its workweek between July and September. Saturdays and Sundays will be normal business days, and Thursdays and Fridays will be off. This will be publicized and thoroughly implemented.

[company name]

The operational system for May continues to be decided in the latter half of the week for the following week after carefully reconfirming the instructions and operational data of each client, whose degrees of recovery differ. At the moment, we are averaging a three-day week.

However, clients' production recovery timing has been pushed forward significantly as stated above, so preparations to normalize clients' production will start from May 16.

Volunteer activities:

As a side topic, volunteer activities in support of the recovery effort were held in one of the stricken areas (Natori City, Miyagi Prefecture) on April 27th and 28th in the same manner as previously. The volunteers were assigned to an assembly hall this time, and removed floorboards, walls and other rubble, etc. The Self-Defense Forces found a body in a house several tens of meters away from our staff during their search activities, and the police tried to identify the body. It was once again reinforced in our minds that those in the affected areas still can't think about their future, even one and a half months after the great earthquake on March 11.

The efforts by the [company name] volunteers were highly appreciated for their efficiency due to their excellent teamwork. The future can be brought into focus by continuing to work steadily without making a fuss while thinking carefully about all kinds of activities.

We certainly promote [company name]'s operation, which is the primary task, while fully meeting the demands of our clients whose top priority is to recover as quickly as possible, but we will continue to perform volunteer activities as much as possible.

(official information 4 from a Japanese company with the main plant located in Tochigi prefecture, 150km from Fukushima)

5月23日に受信 received on May23th

[部分省略]

- ・ リーマンショックの時の減産状況は30%程度だったと記憶していますが、今回はそれ以上…max40~50%…現在も30%減産が続いています。しかしながら「減産原因」には全く異なったものがある事に留意すべきです。リーマンショックの時は「経済的要因」で「需要そのもの」が低下したのに比べ、今回は「ハードウェア=生産設備」のダメージが原因です。ですから復旧するまでにはそれなりの時間が掛かることを覚悟すべきです。
- ・ 停電は今後回避されるという東京電力発表で、「不規則停電」に起因する生産現場の混乱は当面回避されました。
- ・ 現在は日本中が「省エネ対策=省電力対策」を叫んでいますが、それに呼応する形で石原東京都知事が「自販機」と「パチンコ屋」を槍玉に挙げ、「この様な馬鹿げた電気のムダ使いこそ無くせ」の発言が波紋を呼んでいます。
- ・ 私は彼の着眼点に関して全く同感です。
- ・ 例えばスーパーの出入り口や店内にも自販機が並んでいる日本は異常と言えば異常でしょう。
- ・ またパチンコ屋の真昼間からの騒音や賑やかなネオンサイン等はムダ使いの勇といえます。
- ・ ただ…だからといって「自虐的」になる必要は無いとも思っています。
- ・ 私はラスベガスに行った時は有りませんが、ニューヨークなどを含めてあの夜の喧騒と比較するとどうなのでしょう？有名な人の言った事を鵜呑みにする事無く冷静に判断したいものです。
- ・ 私は「節電」の名の下に「暗い街」になるのは好きではありません。景気のいい時には「犯罪防止のために明るい街路にしよう！」と叫びながら、こういう時になったら節電節電と無節操に付和雷同して照明を消す…??
- ・ 「照明」に費やす電力はそれほど大きな割合ではないはずですが。
- ・ 論理的に現状分析をしてより効果的な省電力を推進すべきです。
- ・ 「消灯」に力を入れ過ぎて逆に心まで暗くなってしまっは本末転倒です。

(会社員 1 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))

(from employee 1 at a German group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

5月25日に受信 received on May25th

[部分省略]

今回多くの海外からの駐在員が急遽日本を離れました。
原因はひとつ…福島原発事故からの放射能汚染を恐れたからと聞きます。
私は良くも悪くも、
「へえ…こういう事なんだあ…」と改めて「欧米人の内面」を知る事になりました。

彼らは現在徐々に海外から職場に復帰しつつあります。
その過程の中で他の事業所でのことですが、
「欧米人と日本人の間に『気まずさ』が発生している」という「噂」を聞きました。
実は我が工場からも急遽地元を離れた外人さんが何人か居ましたが、
場内でそのような「噂」は全く出て来ていません。
しかしながら外人さんが多い前述他事業所では結構話題になっているとのことです。

私はそのような「噂」を聞いて2つの事を感じています。

一つ目は、
「欧米人の説明不足」が今回の「気まずさ」を招いたのではないかということです。
日本人は元来武士道精神や神道精神に基づいた「寛容な心を持つ民族」です。
きちんとした背景説明をして日本を離れれば何のわだかまりもなかったはずですが。
きちんとした背景説明をしていたら我々日本人は笑顔で送り出したでしょう。
欧米人は「パニック状態だったので説明する余裕がなかった」と言いますが、
目の前で火山が爆発したわけではありません。
長い歴史の中で筆舌に尽くし難い多くの困難を経験し、
それらを克服してきた欧米人が、
とくに論理的で冷静沈着といわれている先進国の人達が、
今回の事故や事件を目の前にして、
日本人以上に冷静さを失う訳がないというのが私の思いでした。
欧米人はパニックには強いと信じていました。
それなのになぜ今回は「我先に…」と帰国を急いだのでしょうか。
言葉の壁があって上手く説明する余裕が無かった…という話も良く聞きますが、
日常それを克服しながら＝言葉の壁を克服しながら「ビジネス」をしているのに、
今回だけは「時間が無かった/言葉の壁が有った」は説得力に乏しい訳です。
ですから…今回のことで「欧米人の内面」を改めて知る事になったということです。

二つ目は、
ニューヨークやロンドンやパリから200Kmの地点で同様の事故が発生し、
日本政府から「即刻その地を離れなさい」という勧告が出たら、

それらの都市に住む日本人はどのような行動を起こしただろうかと思惟しました。多くの日本人は以下の様に行動をしたでしょう。

- ・ 放射能汚染のレベルはどうかを「冷静に」情報収集しチェックする
- ・ 外出していたら「職場」に戻る (同時に家族にも連絡を取る)
- ・ 職場の現地の上司・同僚・部下に言語の壁を乗り越えながら、貧弱な言葉を駆使して…状況説明をして理解を得て自宅に戻る
- ・ 自宅に戻って家族と共に日本に帰る…安全な場所に移動する
- ・ 再度現地の状況を詳しく調べ安全を確認したらすぐに職場に戻る
- ・ (または)避難先から職場に「頻繁」に連絡を入れる

現実には今回の福島原発レベルなら多くの日本人は現地に留まったでしょう。家族が大切であることは世界中どこの民族も変わりはありません。しかしながら人は家族だけで生きていく事はできません。コミュニティーや会社の一員としてキチンと認められてこそ、家族を守っていく事もできるのです。

例えば…私は人一倍我が工場の X 氏には気を使って対応をしてきました。しかしながら彼は私に何の連絡もなく「南」に「Escape」して行きました。(「Escape」という言葉は X 氏自身が使っていました)。家族は即刻本国へ帰したとのことです。本人は工場に戻って来る時も事前連絡はありませんでした。彼の部下の Y さん曰く…「X 氏が戻ってくるのを知らなかった/挨拶もなかった」…また X 氏は彼の上司…すなわち私にも未だに事の顛末を報告してきていません。いつもコミュニケーションの大切さを叫んでいる欧米人が、肝心かなめの時はコミュニケーションそっちのけ…理解に苦しむ「変わり身」です。

欧米人はチェリノブイリの原発事故で非常にナーバスな経験をしているとか、日本人には理解できない歴史的文化的な背景があると言われます。しかしながら日本人も広島・長崎でチェリノブイリ以上の悲惨な経験をしています。放射線の恐ろしさは欧米人と同様に知っているつもりです。私は広島長崎の恐ろしさや放射能の恐ろしさを、子供の頃から数え切れないほど教わってきています。そういう視点では「チェリノブイリの経験が有るので…」という欧米人の説明は、これも…説得力に乏しいのです。

実は私個人は今回の欧米人のビヘイビアについて特段非難する気はありません。冒頭書いたように「へえ…こういう事なんだあ…」と言う感想と、多くの日本人同様「逃げたいのなら逃げれば良いでしょう…」と醒めて考えています。若干失望する事象はありましたが異文化の人との仕事中には良くある事です。しかし日本人の間で「変な噂」が出ている事を欧米人自信が気にしているのなら、それは…残念ながら彼らの行動が招いた結果であって、責められるのは日本人では無いと思います。

なお今迄「欧米人」と書いてきましたが、
他の全ての海外赴任者は同様の行動を取っていて多くが日本に戻っていません。
ですから「欧米人＝全ての海外赴任者」と置き換えても間違いでは有りません。

海外から色々と暖かい励ましの言葉を受けます。
「常に貴方のそばに…」とかいかにも詩的で人間愛に満ちた言葉が送られてきます。
そのこと自体はありがたいことですが、
同時に行動が伴ってこそ初めてそれらの「言葉の重み」が証明されます。
そんな甘い言葉と「我れ先に Escape」がどうリンクするのか私には理解できません。

私は今回の3重苦を経験して改めて日本人の良さを確信しました。
全ての財産はもとより最愛の人を亡くしながらも前を向く事を忘れない日本人。
そんな中同じ地球上に住む人類は100年後、
物質面では発展途上国も先進国も共に同じ「物質文化」の恩恵を受けるでしょう
すなわち「最新技術の恩恵を受ける」という点では「地球は一色」になるでしょう。
しかしながら…再度…100年後200年後、
地球の「精神文化」を代表するのは「日本文化」「日本人の精神性」…
すなわち我が「日本文化」が世界人類の規範となりリードする日が来る…
これは縄文文化以来我々の祖先が培って来た DNA がベースとなるでしょう。
日本人は近代の一時期において戦争という間違いを犯しましたが、
基本的にはこの2000年の有史において「争い事」を忌避し、
時代のそこ此処で独自文化の軸足を忘れずに多くの「異人」と交流してきました。
日本人の DNA の中にはそのような国際性も実は備わっているわけで、
今回の3重苦は原爆被災と同じく歴史に残る極めて悲しい出来事ではあったけれど、
現代日本人を色々な面で覚醒させるターニングポイントになるでしょう。

最後になります。
100%の「外人さん」が本国へ「逃げ帰った」わけでは無い事も銘記しておきます。
Aさん・Bさん・Cさんなど常日頃信頼している人が、
日本で休むことなく仕事をし続け指揮を取ってくれていた事は心の救いです。
その視点ではこの様な心ある外人さんと日本人の間には多くの共通項があります。
こういう人の存在がトリガーとなって今後ともビジネスの輪が広がってゆく事でしょう

しかし私は今後「一時期停滞する」だろうと気にしている事が有ります。
「我が工場に来てくれる欧米人が居なくなるのでは無いか」という事です。
少なくとも激減するような気がしています。
科学的で客観的なデータを大切にする欧米人には是非冷静な判断をしてもらって、
従来通り我が工場へ足を運んでいただきたいと願っています。

今までと同じ国際色豊かな我が工場に一刻も早くなってもらいたい…
そのために福島原発問題が「ネックになる」という事であれば、

日本政府は内紛に明け暮れしているのではなく、
また老齢な政治家が自分の過去の事を棚に上げて、
「即刻菅総理が辞めなければ日本は滅ぶ…」などと脅迫じみた事を繰り返さず、
小異を捨て大同団結することで全員が一丸となって、
あらゆる面で「前向きな行動」を起して一刻も早く収束してくれる事を祈るばかりです。

そして今回の震災で亡くなった人を心から弔い、
全関係者が復興に向けて全力投球をする…
このことが「生き残った日本人」に課せられた重要な仕事であると信じています。

以上

(会社員 1 栃木県(福島第一原子発電所より約 100 キロ))
(from employee 1 at a German group company, Tochigi prefecture, 100km from Fukushima)

6月2日に受信 received on June 2nd

[部分省略]

日本からの現状レポート(5月28日発信)

General topics:

5/25(水)現在、死者は約15,200名、行方不明者は約8,700名、避難者は約108,000名です。

我々、立ち直りに頑張っています(この欄は弊社[名前省略]社長から皆様へのメッセージを送ります)

大震災から2ヶ月以上たち余震は減ってきましたが、原発事故の収束作業が思う様に進んでいません。

原発の後遺症として北北西50km以内が汚染地域とされ、且つ放射能は関東含めて広範囲に飛散しましたが放射エネルギーは極めて微量であり東京や関東地域の人々は冷静に対応しています。

政府は、原発の収束には今後1年程度必要であるとの見解を示しました。日本国内にある54基の原発(稼働19基)に対し今回の事故を教訓に、今一度安全点検を実施します。又中部電力(トヨタ、スズキ地区に供給中)浜岡原発は安全点検と津波補強対策の為、2年間停止される事となりました。

従い、政府は今年の夏に向けて国家として15%節電目標を発表致しました。一般家庭、産業界共に15%削減へ向けその対策を講じている所です。

自動車業界では平日のピーク電力を削減する為、電力使用量の少ない土日を稼働日、電力使用量が多い木金を休日と決定致しました。[社名省略]は、その中土日操業に対応する事は勿論、冷房設定温度見直し、ラインの使用電力改善等ここで改めて省エネ改善活動を展開しています。

例えば、クールビズはTシャツに短パン、加えて女子はタンクトップ、ビキニもOKと私より提案致しましたが却下されてしまいました。

何はともあれ暑い夏になりますが、社員一同改善にそしてボランティアに元気に活動しています。ご安心ください。

Particular problem:

フクシマに関し、前回報告した「循環注水冷却」という新たな方法の「かなめとなる」浄化装置”の設置が、6月初旬テスト開始、中旬稼働として推進しています。但し、1~6号機全体で汚染水は現在10万トン、且つ毎日500トン注水・増加しており、汚染水のメガフロートや他建屋への移送等で溢れる事を凌いでいますが、一刻も早く”浄化装置”が稼働できる事を望みます。

尚、東京電力は、5月20日 第1,2,3,4号機の廃却及び第7,8号機の増設中止を発表致しました。

食物に関しましては、野菜、牛乳、魚等全てに関して IAEA 基準に沿った政府暫定基準の下 毎週検査を実施し、こまめに出荷停止や再開を実施しています。

又、IAEA 調査団が来日し5月25日 フクシマ事故の経緯と対応に関し、経済産業省原子力安全保安院から説明を受けました。団長のマイク・ウェイトマン英国原子力規制機関長は「日本からの情報収集は世界としても教訓を学ぶ観点から重要だ」と語り、今後の原発の安全性向上に役立てたいとの考えを強調しました。今後、事情聴取や現地視察を行い、6月1日に調査結果概要を日本政府に提出します。

尚、弊社全事業所は、全く問題ないので更新情報は有りません。

日本の近況・・・節電への取組

日本は今年、いつもより暑い夏を迎えます。節電が全国に広がる為です。消費者の環境意識は大震災を期に一気に高まり 且つ節電意識が浸透し始めており一般家庭は日本の電気代の高さを再認識すると共に それぞれ省エネに知恵を絞っています。

大幅に販売を伸ばしている LED 電球は現行の 60 ワット白熱電球との”1個対1個”交換で、月間 17KW の節電、¥374 の電気代が減ります。一方 扇風機が通常年の3倍の売れ行きを示し、値段は高いが省エネ型のエアコン、冷蔵庫需要が大幅に伸びています。又、スーパーマーケット、百貨店は電車などに乗って行く都心店の販売減少に比べ住宅街に近い郊外店が販売増加しています。

大震災を境に日本人の生活は一変しました。今、日本では「節電消費」を合言葉に従来の”ものさし”では計れない消費スタイルが生まれつつあります。

Automotive industry:

自動車大手会社の生産計画正常化は、自動車会社の献身的サポートと 被災した会社の復興努力により予測に対し大幅に前倒しされ、且つ明確化されて来ています。或る自動車大手会社では、6月国内生産は大震災前計画の90%以上に戻り、8月からは ほぼ 100%になります。但し海外では中国、タイは6月末から 100%生産可能ですが、米国では6月は70%程度と地域によりバラツキが出ています。

又 節電対策としての木曜日・金曜日休日化は、具体的に 7/1(金)より開始し 9/30(金)迄 3ヶ月間実施する事となりました。

尚、自動車会社の何社かは 今回の大震災の影響で3~5月に 余儀なくされた減産台数を、売れ筋車型に絞り、生産正常化した以降 2012年3月迄に増産・挽回する計画も考えています。

[社名省略]

6月の稼働体制は、栃木工場、北海道工場共に ほぼ平常稼働となります。
又6月には 7月～9月間の省エネ対策及び変則稼働に向けて細部に渡る取り決めをした後、協力企業含めた調整を実施していきます。

[ボランティア活動 5/19,20]

トピックスとして 5/19,20日被災地の一部(宮城県名取市)へ復興手伝い(ボランティア)を実施してきました。今回はボランティアセンターでも「どう見ても、もう住めない」と考え、助けを頼んでこないだろうと思っていた、名取市でも一番被害が激しくほぼ瓦礫と化した店兼住居からの依頼を受け 土出しと清掃のボランティアを実施致しました。

店側は土砂及び車も突っ込んでいて到底修復不可能でしたが、住居側は、2日かけて床板を外し土台部分及び1,2階全ての土砂を取り除き 清掃をする作業を実施しました。助けを求めていらっしゃった被災者の方との会話から 2ヶ月以上、避難所生活を続けてきた被災者の方々は瓦礫に近い状態且つ電気・ガス・水道が通っていなくても 我が家に戻りたいと切実に望んでいるのを痛感し、立ち直られる事を心から願うと共に 誰にもぶつけられない怒りを伴った熱い思いを止める事が出来ませんでした。

(主要工場は栃木県にある日本企業の海外関連企業へのアップデート書簡 5(福島第一原子発電所より約 150キロ))

English version

General topics:

As of Wednesday, May 25th, there have been about 15,200 confirmed fatalities, a further 8,700 remain unaccounted for, and 108,000 evacuees remain in shelters.

Doing our best to recover (President [name] conveys his thoughts via this column):

Just over two months have passed since the great earthquake, and the frequency of the aftershocks has gradually tailed off, but efforts to deal with the nuclear calamity have not run so smoothly. As a result of the nuclear accident, a 50-km zone in the north-northwest region has been officially declared polluted. Radiation spread over a wide area including the Kanto region, but the actual readings were quite small, and people in the Kanto region – including Tokyo – have reacted calmly.

The government opined that it would probably take about a year to recover from the nuclear incident. Revised safety inspections will be conducted at all 54 nuclear power stations (of which currently only 19 are operating) to follow up on the lessons learnt from this recent event. Chubu Electric Power Company (which supplies power to Toyota's and Suzuki's main areas) decided to temporarily shut down its Hamaoka Nuclear Power Station for two years for safety checks and to reinforce safeguards against future potential tsunamis.

Accordingly, the government stipulated a 15% energy-saving target for this summer. Both the general public and private sector industries are currently drafting measures to achieve this target.

The automotive industry has decided to shift some production to the weekends when overall electrical consumption is lower and close down completely on Thursdays and Fridays when electrical consumption is highest in order to cut energy use during peak demand on weekdays. Under such circumstances, [company name] has further reviewed its energy-saving activities, such as reassessing temperature settings on air conditioners, and more efficient use of electricity on its production lines, as well as reacting to the shift to weekend operation.

For example, in terms of Cool Biz, T-shirts and shorts are acceptable, and I even suggested women could wear singlets and bikinis, but this idea was unfortunately rejected.

Apart from anything else, I believe that this summer will be hot, but all of us have been doing our utmost to improve the situation and collaborate through these voluntary measures. Please don't worry about anything.

Specific issues:

At Fukushima, there have been diligent efforts to urgently install purifiers essential to implement a new approach involving the "circulation of injected cooling water" as reported previously, with testing set to start at the beginning of June, followed by activation in mid June. However, the total volume of contaminated water from plants 1 to 6 is already 100,000 tons, with a further 500 tons being injected into these plants every day. Although some of this contaminated water is being transferred to a Mega-Float and other facilities to prevent it overflowing, there is an urgent necessity to get the decontamination equipment up and running. On May 20th, TEPCO announced that plants 1, 2, 3 and 4 would be permanently scrapped, as well as terminating plans to expand plants 7 and 8.

With regard to foodstuffs, testing is being implemented every week under the government's provisional standards based on IAEA recommendations for vegetables, milk, and fish, etc., so shipping from affected areas has been suspended and can only restart if the results permit.

Furthermore, an IAEA inspection team arrived in Japan on May 25, and the Nuclear and Industrial Safety Agency (NISA) of the Ministry of Economy, Trade, and Industry (METI) explained their understanding of the background and reaction regarding the Fukushima Nuclear accident. Mr. Michael Weightman, Chief Inspector of Nuclear Installations in the United Kingdom, said, "Collecting information in Japan is essential if we are to disseminate the lessons to be learned around the world", emphasizing that this information will be used to enhance the safety of nuclear reactors in the future.

The team will submit questions about the accident and conduct on-site investigations, after which an overview of the inspection results will be submitted to the Japanese government on June 1.

None of our business sites have any problems currently, so there is no update information.

Recent status in Japan: Measures to save energy

We will doubtless all feel a bit hotter than usual this summer, because everyone in the country is doing their bit to save energy.

One side effect of the great earthquake was an immediate uplift in consumer awareness about the environment, with everyone now trying to save energy. The general public was reminded just how expensive electricity is in Japan, and everyone is carefully thinking how best to save energy.

Sales of LED light bulbs have significantly increased. Changing just one 60-watt incandescent bulb to an LED of equivalent luminosity saves 17 kW (¥374) a month. On the other hand, sales of electric fans have tripled compared to the average year, while sales of energy-saving air conditioners and refrigerators have also increased significantly, despite being more expensive. Another telling sign was that sales at supermarkets and department stores in the suburbs closer to residential areas increased more than those in urban areas, which people need to use a train or suchlike to visit.

The great earthquake has proved to be a turning point catalyzing a drastic change in Japanese lifestyles in terms of consumption. In Japan, a new trend is building up a head of steam, namely “energy saving”, which is in stark contrast to before.

Automotive industry:

The major car companies have managed to advance their schedules for normalizing production thanks to their devoted support and the great efforts made by the hardest hit companies to recover, and the situation is becoming much clearer. One major car company anticipates post-quake production to return to about 90% of its prior level in June, and to virtually 100% by August. However, there remains considerable variation internationally; for example, production rates should return to about 100% from the end of June in China and Thailand, but will be just 70% in June for USA.

As one measure to save energy, it has been decided to change the days off from the weekends to Thursdays and Fridays for three months, specifically from Friday, 1 July until Friday, 30 September.

Some car companies plan to cut the number of models being manufactured to the best sellers as there was such a reduction in the number of cars manufactured between March and May due to the recent earthquake, with the aim of increasing production and offsetting their losses by March 2012 after a return to normal production.

[company name]

Operations in June will almost have returned to normal at both the Tochigi and Hokkaido plants.

In June, we will decide what energy-saving measures and irregular operations to adopt from July to September, and will then coordinate with cooperating companies.

Volunteer activities:

As a side topic, a good number of our staff volunteered their support to assist with the recovery in one of the hardest hit regions (Natori City, Miyagi Prefecture) on May 19th and 20th.

This time, we helped to remove mud and clean up a shop/house that had almost been ruined in one part of Natori City in response to local requests. Even the volunteer center never imagined they would receive a request to help restore this property, as it looked totally unfit for habitation again.

It proved impossible to restore the shop side because a car was wedged inside with an enormous amount of mud, but we took off the floor panels and removed all the mud from the foundations, and first and second floors, and spent two days helping with the cleaning. Through our conversations with those who requested volunteer support, we realized that they are all desperate to go home even though their houses were almost turned to rubble and they had no utility supplies (electricity, gas or water) after living in an evacuation center for over two months. We sincerely hope they can recover soon, and felt an abiding sense of frustration at not being able to blame this tragedy on someone.

(official information 5 from a Japanese company with the main plant located in Tochigi prefecture, 150km from Fukushima)

「人生の意義が人と交流することであり、交流することで人生の意義が成り立つとしよう。それを実感するのは、まさにろくでもない状況に陥っている時なんだ」

今回のやり取りの中で、ある人から上記のコメントをもらい、このウェブサイトのモットーにしました。